

## 第1学年国語科学習指導案

対 象 第1学年1組・2組・3組

- 1 単元名 すきなところを見付けよう  
「たぬきの糸車」(光村図書 国語一下)

### 2 単元の目標

知 識 及 び 技 能	<ul style="list-style-type: none"> <li>語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。</li> <li>場面の様子に着目して、登場人物の行動や気持ちを具体的に想像することができる。</li> <li>場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え感想をもつことができる。</li> <li>語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように感想カードの書き表し方を工夫することができる。</li> </ul>
思考力、判断力、表現力等	
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習を生かし、積極的に「本の森」の物語を読み感想カードに書いて伝えることができる。</li> </ul>

### 3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①場面の様子に着目して、登場人物の行動や気持ちを具体的に想像している。</li> <li>②場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え感想をもっている。</li> <li>③語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように感想カードの書き表し方を工夫している。</li> </ul>	①これまでの学習を生かし、積極的に「本の森」の物語を読み、感想カードに書いて伝えようとしている。

### 4 研究主題との関連

本単元における「具体」と「抽象」

- ・「具体」・・・おすすめの場面やその理由
- ・「抽象」・・・自分が選んだおすすめの本

来年の1年生に自分が選んだ本の「おすすめカード」を書くという抽象的な概念から、教科書教材「たぬきの糸車」をモデルにおすすめカードの書き方を話し合い、おすすめカードの書き方を具体化していく。さらに、「本の森」から選んだ一冊の「おすすめポイント」や「おすすめの理由」についてドーナツチャートを用いて考えることで、具体化・抽象化思考力を高める。

活動の中ではタブレット型端末機を活用し、「言葉の宝箱」をタブレット型端末機で自由に見て書く時の手助けになるようにする。また、教科書教材「たぬきの糸車」のおすすめカードの書き方を学級全体で話し合う活動や、友達とおすすめの理由を交流する活動を通して、具体と抽象を往還することができると思った。

5 単元の指導計画と評価計画(全10時間)

時	目標	学習内容・学習活動	評価規準
1 1-3 本時	「たぬきの糸車」を読んで好きな場面を見付けることができる。	○「本の森」から一冊選び、来年の1年生に「おすすめカード」を書くことを知る。 ○「たぬきの糸車」を読み、おすすめの場面を見つけてノートに書く。	イー②
2	第1場面を読んで、たぬきときこりの行動を想像することができる。	○第1場面を音読する。 ○たぬきがどんないたずらをしたのか想像して発表する。 ○きこりの気持ちを想像して、ペアで意見を交流する。	ア-① イー①
3	第2場面を読んで、たぬきとおかみさんの行動を想像することができる。	○第2場面を音読する。 ○たぬきとおかみさんの会話を想像して、ペアで交流する。	ア-① イー①
4	第3場面を読んで、たぬきとおかみさんの行動を想像することができる。	○第3場面を音読する。 ○おかみさんはどうしてたぬきを逃がしたのか想像して発表する。 ○たぬきの気持ちを想像して、ペアで意見を交流する。	ア-① イー①
5	第4場面を読んで、たぬきとおかみさんの行動を想像することができる。	○第4、5場面を音読する。 ○踊りながら帰っていくたぬきの気持ちを想像して発表する。 ○たぬきの気持ちを想像して、ペアで意見を交流する。	ア-① イー①
6	「たぬきの糸車」の好きなところやその理由をドーナツチャートに書くことができる。	○自分の好きな場面や好きな登場人物など、おすすめポイントについてドーナツチャートに書いて発表する。	イー③
7 1-2 本時	「たぬきの糸車」の好きなところやその理由を「おすすめカード」に書くことができる。	○教師の「おすすめカード」を参考に、どんな順序にしたら伝わりやすいか話し合う。 ○友達の「おすすめカード」を見て、共通点や相違点を見付け、「おすすめカード」に書いたらいいこと(観点)を話し合う。	イー③
家庭学習		○選んだ本を音読する。	反転学習
8 1-1 本時	選んだ本の好きなところやその理由をドーナツチャートに書くことができる。	○自分が選んだ一冊を読んで、おすすめの場面に付箋を付ける。 ○「おすすめポイント」をドーナツチャートに書く。	ウ-①
9	選んだ本のおすすめの場面について、「おすすめカード」を書くことができる。	○「おすすめカード」の観点を確認し、自分のおすすめの理由を「おすすめカード」に書く。	イー③
10	友達の「おすすめカード」を読み合い、感想を伝えることができる。	○「おすすめカード」をペアやグループで読み合い感想カードを書く。 ○友達の良かったところを発表し今後の活動につなげる。	イー③

6-1 第1学年3組本時(10時間中の第1時)

(1) 本時の目標

- 「たぬきの糸車」を読んで、好きな場面を見付けることができる。

(2) 本時の展開

時間	○主な学習活動	◇指導上の留意点	評価規準(評価方法)
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○来年の1年生に本の森のおすすめカードを書くことを知り、学習の見通しをもつ。</li> <li>○「たぬきの糸車」で練習をすることを理解する。</li> </ul>	◇おすすめしたい気持ちを高めることができるように、「本の森」の表紙を提示する。	
展開 35分	「たぬきの糸車」のすきなところを見つけよう。		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「たぬきの糸車」という題名からどんなお話か想像する。</li> <li>○教師の範読を聞いて、お話の大体を確認する。</li> <li>○好きな場面やその理由を発表し、全体で感想を交流する。</li> <li>○ノートにおすすめの場面とその理由を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇おおまかな内容を捉えることができるように、挿絵を掲示して話の流れを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物</li> <li>・時</li> <li>・場所</li> <li>・出来事</li> </ul> </li> <li>◇好きな場面の理由を具体化できるように、「どうしてそう思ったのか」、「どんなところがおもしろかったのか。」と聞き返す。</li> <li>◇理由まで明確に書くことができるように、書き方を提示する。</li> </ul>	イ-②(ノート) 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え感想をもっている。
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の振り返りをする。</li> <li>○次時の学習の見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇本時で身に付いた力について、めあてとの関連を意識して振り返る。</li> <li>◇学習計画一覧表を提示する。</li> </ul>	

6-2 第1学年2組本時(10時間中の第7時)

(1) 本時の目標

- 「たぬきの糸車」のすきな場面を「おすすめカード」に書くことができる。

(2) 本時の展開

時間	○主な学習活動	◇指導上の留意点	評価規準(評価方法)
導入 5分	○本時のめあてを確認する。	◇学習計画一覧表を提示し本時の学習活動を児童が意識できるようにする。	
展開 35分	「たぬきの糸車」のおすすめカードをかこう。		
	<p>○教師の例文を聞いて書く順序 (どんなお話 ⇒ おすすめの場面 ⇒ おすすめの理由)を考える。</p> <p>○おすすめカードを書く。</p> <p>○友達のおすすめカードの書き方を参考に、どんな観点があるか見付ける。</p>	<p>◇前時に書いたドーナツチャートを参考にしながら文章化する。</p> <p>◇表現の仕方を膨らませられるように、「言葉の宝箱」を参考にする。</p> <p>◇様々な観点を見つけられるように机間指導をして指名する児童をあらかじめ決めておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物</li> <li>・場面</li> <li>・会話</li> <li>・面白いところ</li> <li>・感動するところ など</li> </ul>	<p>イー③(ワークシート) 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように感想カードの書き表し方を工夫している。</p>
まとめ 5分	<p>○学習の振り返りをする。</p> <p>○次時の学習の見通しをもつ。</p>	◇本時で身に付いた力について、めあてとの関連を意識して記述するよう促す。	

6-3 第1学年1組本時(10時間中の第8時)

(1) 本時の目標

- 「おすすめカード」に書くことを考えながら、紹介したい本を読むことができる。

(2) 本時の展開

時間	○主な学習活動	◇指導上の留意点	評価規準(評価方法)
導入 5分	○本時のめあてを確認する。	◇学習計画一覧表を提示し本時の学習活動を児童が意識できるようにする。	
えらんだ本のおすすめポイントを見つけよう。			
展開 35分	<p>○自分が選んだ「本の森」を読んで、おすすめポイントに付箋を付ける。</p> <p>○グループの友達とおすすめの場面とその理由を交流する。</p> <p>○おすすめポイントを発表し全体で共有する。</p> <p>○自分が選んだ一冊の「おすすめポイント」とその理由をドーナツチャートに書く。</p>	<p>◇おすすめポイントを想起できるように、「たぬきの糸車」で出てきたおすすめポイント(登場人物、場面、会話、面白いところ、感動するところ)など具体的な視点を提示する。</p> <p>◇自分のおすすめポイントとその理由を膨らませやすいように、同じ本や類似の本を選んだ友達同士で交流する。</p> <p>◇友達のおすすめポイントを聞いて付箋を増やしてもよいことを伝える。</p> <p>◇理由が見つからない児童にはおすすめポイントの観点(わくわくするところ、はらはらするところ、ドキドキするところなど)を提示し、1点から2点おすすめポイントとその理由を書けるようにする。</p>	ウー①(ワークシート) これまでの学習を生かし、積極的に「本の森」の物語を読み、感想カードに書いて伝えようとしている。
まとめ 5分	<p>○学習の振り返りをする。</p> <p>○次時の学習の見通しをもつ。</p>	◇本時で身に付いた力について、めあてとの関連を意識して記述するよう促す。	



## 第2学年国語科学習指導案

対 象 第2学年1組・2組・3組・4組

- 1 単元名            せつめいのしかたに気を付けて読み、学んだことをいかして書こう  
                      「馬のおもちゃの作り方」「おもちゃの作り方をせつめいしよう」(光村図書 国語二下)

### 2 単元の目標

知識及び技能	・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。
思考力、判断力、表現力等	・時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。 ・順序に沿って簡単な構成を考えながら、文章を書くことができる。 ・相手に伝わるように、話す事柄の順序を考えることができる。
学びに向かう力、人間性等	・進んでおもちゃの作り方を説明する文章を読んだり、書いたりしようとする態度を養う。

### 3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。	①「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 ②「書くこと」において、順序に沿って簡単な構成を考えながら、文章を書いている。 ③「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、話す事柄の順序を考えている。	①進んでおもちゃの作り方を説明する文章を読んだり、書いたりしようとしている。

### 4 研究主題との関連

本単元における「具体」と「抽象」  
 ・「具体」・・・作り方の順序  
 ・「抽象」・・・おもちゃの作り方

本単元においては、おもちゃの作り方を友達に伝える活動を通して、どのように説明を工夫するかを判断し、相手に分かりやすく説明する力を児童が身に付けられるようにする。そのために、「具体」と「抽象」とを関連付ける。相手がおもちゃを作れるようにするためには、具体的に部位の作り方を理解していなければならない。何cm切るのか、どこにどのように接続するのか等、部位を作るためにどうするのかを問い往還させていく。

また、紹介する相手を1年生に設定して相手意識をもたせる。自分たちも昨年度は2年生におもちゃの作り方を教えてもらった経験があるので、相手のことが考えやすい。1年生がおもちゃを簡単に作れるようにするためにはどのような説明がよいのか必然的に考えるため、具体と抽象を往還できると考えた。

## 5 単元の指導計画と評価計画(全13時間)

時	目標	学習内容・学習活動	評価規準
1	単元の目標を確認し、学習の見通しをもつことができる。	○自分が作ったものの経験を発表する。 ○1年生におもちゃ作りを教えることを目標に学習計画を立てる。	ウー①
2	教材文の構成を理解することができる。	○教材文を読み、馬のおもちゃを作ることができる構成になっているか考える。	イー①
3 4	馬のおもちゃを作るために必要な言葉や事柄を考えることができる。	○どの文章を注意深く読むことで馬のおもちゃを作ることができるか考える。 ○教材文の中から、説明の工夫を見付ける。	イー① イー②
5	教材文の工夫を伝え合うことができる。	○意見を共有し、作り方が分かりやすくなるためにどのような言葉が使われているのかを考える。	イー③
6 2-3 本時	教材文から組み立てメモを作ることができる。	○教材文の構成や用いられている言葉を使って組み立てメモを作る。	イー②
生活科	おもちゃ作り		
7	自分が紹介するおもちゃを決め、必要な材料や道具、作る手順を書き出すことができる。	○おもちゃを作る時に必要な材料や道具、作る手順を書く。	イー②
8 2-1 本時	自分が作るおもちゃの作り方を組み立てメモにすることができる。	○順序や具体的な作り方が分かるかに気を付けて組み立てメモを作る。	アー①
9 2-4 本時  10 2-2 本時	組み立てメモを基に、下書きを書くことができる。	○教材文の工夫を振り返り、説明文を分かりやすく書くためにどのような言葉が必要なのかを考える。	イー②
11	下書きを読み合い、説明するための工夫を助言し合うことができる。	○同じおもちゃを作った人同士でグループを組み、コラボノートで共有する。 ○工夫してメモを書くことができているか確認する。	イー③
12	下書きを基に、おもちゃの作り方の説明文を書くことができる。	○文章の中にどのような言葉が入っていれば、分かりやすいのか確認し工夫して書けているか確かめる。	アー①
13	友達と文章を読み合い、感想を伝え合うことができる。	○自分の説明文の写真を撮り、コラボノートで共有する。 ○友達の発表を聞いてよいところや、分かりやすかったことを伝える。 ○単元の学習を振り返り、文章を書く時に大切なことを振り返る。	イー③



6-1 第2学年3組本時(13時間中の第6時)

(1) 本時の目標

- 教材文から組み立てメモを作ることができる。

(2) 本時の展開

時間	○主な学習活動	◇指導上の留意点	評価規準(評価方法)
導入 5分	○前時の復習をする。  ○本時のめあてを確認する。	◇前時で見つけた馬のおもちゃの作り方が分かりやすくするために工夫を振り返る。	
「馬のおもちゃの作り方」の組み立てメモを考えよう。			
展開 35分	○教材文は、初め(材料と道具)、中(作り方)、終わり(遊び方)から出来ていることを確認する。  ○初め、中、終わりの項目を考える。  ○ワークシートの内容を共有する。	◇初め、中、終わりの大切さについて振り返り、どこで分かれていますか考えてみる。  ◇自分が作った経験を振り返り、材料と道具について考えやすくする。 ◇順序を表す言葉は何かを全体で考えるよう促し、作り方を分かりやすくする。  ◇「順序を表す言葉」や「何をするのか」を抑えるよう促す。	イー② (ワークシート) 「書くこと」において、順序に沿って簡単な構成を考えながら、文章を書いている。
まとめ 5分	○学習の振り返りをする。  ○次時の学習の見通しをもつ。	◇本時で身に付いた力について、めあてとの関連を意識して記述するよう促す。	

6-2 第2学年1組本時(13時間中の第8時)

(1) 本時の目標

- 自分が作るおもちゃの作り方を組み立てメモにすることができる。

(2) 本時の展開

時間	○主な学習活動	◇指導上の留意点	評価規準(評価方法)
導入 5分	○本時のめあてを確認する。	◇1年生がおもちゃを作りやすくするために、相手意識もって書くことを確認する。	
	「おもちゃの作り方」の組み立てメモを書こう。		
	○本時の学習の手順を確認する。 ・材料と道具、作り方、遊び方や楽しみ方を書く。	◇学習の手順を理解しやすくするために、短冊を見せて確認する。	
展開 35分	○おもちゃの実物を見ながらワークシートの初め「材料と道具」を書く。  ○中「作り方」を書く。  ○終わり「遊び方や楽しみ方」を書く。	◇箇条書きの形式で書くことができるように、「馬のおもちゃ」の組み立てメモを振り返るように言葉がけをする。  ◇分かりやすい作り方を書くために大切な「順序を表す言葉」「長さや個数」「特に注意すること」などの項目を掲示する。  ◇自分が書いたおもちゃメモを参考にすることを確認するよう促す。  ◇ルールややり方を考えやすくするために、実際に遊んだ時のことを振り返るよう促す。	アー①(ワークシート) 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。
まとめ 5分	○学習の振り返りをする。  ○次時の学習の見通しをもつ。	◇本時で身に付いた力について、めあてとの関連を意識して記述するよう促す。	

6-3 第2学年4組・2組本時(13時間中の第9/10時)

(1) 本時の目標

- 作り方が分かるように、順序を意識して説明を書くことができる。

(2) 本時の展開

時間	○主な学習活動	◇指導上の留意点	評価規準(評価方法)
導入 5分	○本時のめあてを確認する。	◇1年生が作りやすくするために、相手意識をもって書くことを確認する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">                     おもちゃの作り方を分かりやすく書こう。                 </div>			
	○本時の学習の手順を確認する。 ① 前書きを書く。 ② 材料と道具を書く。 ③ 作り方を書く。 ④ 遊び方や楽しみ方を書く。	◇学習の手順を理解しやすくするために、短冊を見せて確認する。	
展開 40分  第9時 2-4	○前書きで話題提示を書く。  ○組み立てメモを基に作り方を書く。 ○材料と道具を書く。 ○材料→各家庭や担任が用意するもの 道具→原則、お道具箱に入っているもの	◇作る人の立場に立つように助言し、どのような言葉が書かれていればよいか確認する。  ◇「まず」「次に」など順序を表す言葉のよさに気付くことができるように、教材文の工夫している点を確認する。	イー②(ワークシート) 「書くこと」において、順序に沿って簡単な構成を考えながら、文章を書いている。
第10時 2-2  展開 40分	○絵を描く。  ○遊び方や楽しみ方を書く。  ○できた下書きを発表する。	◇文に合った挿絵を描く大切さを理解できるように、教材文を提示する。  ◇ルールややり方を考えやすくするために、実際に遊んだ時のことを振り返るよう促す。  ◇どのような言葉が入っていたから分かりやすかったかを考えるよう促す。	イー②(ワークシート) 「書くこと」において、順序に沿って簡単な構成を考えながら、文章を書いている。
まとめ 5分	○学習の振り返りをする。  ○次時の学習の見通しをもつ。	◇本時で身に付いた力について、めあてとの関連を意識して記述するよう促す。	



### 第3学年国語科学習指導案

対 象 第3学年1組・2組・3組

- 1 単元名 組み立てにそって、物語を書こう  
「たから島のぼうけん」(光村図書 国語三下)

#### 2 単元の目標

知識及び技能	・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。
思考力、判断力、表現力等	・相手や目的を意識して、想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。 ・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考え書く内容の中心を考慮することができる。 ・書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。 ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。
学びに向かう力、人間性等	・言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

#### 3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。	①相手や目的を意識して、想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。 ②書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考え書く内容の中心を考えている。 ③書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。 ④間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。	①粘り強く、書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって報告する文章を書こうとしている。

#### 4 研究主題との関連

本単元における「具体」と「抽象」

- ・「具体」・・・出来事の詳しい内容や登場人物の言動の描写
- ・「抽象」・・・物語全体の構想、場面ごとの大まかな出来事

全体の構想という抽象的な概念では、物語の始まりと結びや大まかな出来事を考える。全体の構想を基に、それぞれの場面での出来事の内容に具体化していく。この時、起承転結の承と転について、起きる出来事に対してどのように解決すると面白いのかを中心に構成を考える。次に、起での設定と結との関係とに気を付けることで、全体を通して流れや展開のある物語にする。このように抽象と具体を往還させることで、具体化・抽象化思考を高める。

活動の中ではタブレット型端末機を活用し、他の児童が想像したことや活動内容を共有できるようにする。自由にイメージを広げながらもメタ的な視点をもたせることで、子供たち自身に「具体化・抽象化思考力」を意識させたい。

5 単元の指導計画と評価計画(全9時間)

時	目標	学習内容・学習活動	評価規準
1	単元の目標を確認し、学習計画を立てることができる。	○冒険物語の登場人物や展開について話し合う。 ・冒険物語について話し合い、ハラハラドキドキする物語には展開の工夫が大切であることに気付く。 ○学習計画を立てる。 ・これまでに学習した物語などのように、「組み立てに沿って物語を書く」という学習課題を基に、学習計画を立てる。	ウー①
2 3-1 本時	内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考慮することができる。	○冒険物語の展開について話し合っ展開のパターンをまとめる。 ・冒険物語の展開で、出来事と解決方法を書き出す。 ○自分が書く物語の大まかな展開のパターンを決める。 ・出来事と解決方法のパターンを選ぶ。	イー②
家庭学習		○個人で絵地図を見て、どのような出来事が起こるか、どのように解決するのかを考える。 ・自分が選んだ展開のパターンで考える。可能であれば、それ以外のパターンでも考える。	ICT活用 反転学習
3 3-3 本時	相手や目的を意識して、想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。	○絵地図から想像した出来事を共有し、話し合う。 ・タブレット型端末機(コラボノート)で考えたことを共有し、面白みのある展開にするためにどうすればよいかを考える。 ○自分が書く物語の出来事を決める。	イー①
4	内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考慮することができる。	○自分が書く物語の構成メモを作る。 ・物語の起承転結に合わせてそれぞれの場面で起こる内容について書く。	イー②
家庭学習		○個人で物語の起承転結の起の場面を下書きする。	反転学習
5	書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。	○下書きを共有し、感想や意見を伝え合う。 ・タブレット型端末機(Teams)で下書きを共有し、よい表現や面白さを伝え合う。 ○伝え合ったことを基に、下書きを修正したり、続く場面を書いたりする。	アー① イー③
家庭学習		○個人で物語の起承転結の承と転の場面を下書きする。	反転学習
6 7 3-2 本時	様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。	○下書きを共有し、感想や意見を伝え合う。 ・タブレット型端末機(Teams)で下書きを共有し、よい表現や面白さを伝え合う。 ○伝え合ったことを基に、下書きを修正したり、続く場面を書いたりする。	アー① イー③
家庭学習		○個人で物語の起承転結の結の場面を下書きする。	反転学習
8	間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。	○下書きを共有し、感想や意見を伝え合う。 ・タブレット型端末機(Teams)で下書きを共有し、よい表現や面白さを伝え合う。 ○伝え合ったことを基に、下書きを読み返して、物語を完成させる。	アー① イー④
家庭学習		○個人で物語を清書して、完成させる。	反転学習
9	書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。	○観点に沿ってペアやグループで文章を読み合い感想や意見を伝え合う。 ○単元の学習を振り返り、自分の文章のよいところを確認し、今後への生かし方を考える。	イー③ ウー①

6-1 第3学年1組本時(9時間中の第2時)

(1) 本時の目標

- 内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。

(2) 本時の展開

時間	○主な学習活動	◇指導上の留意点	評価規準(評価方法)
導入 5分	○冒険物語を書くという単元全体のためあてを確認する。  ○本時のためあてを確認する。	◇冒険物語は展開が工夫されていることを確認する。  ◇物語の構成(起承転結)について確認する。	
自分が書く物語をどんな組み立てにするか考えよう。			
展開 35分	○冒険物語の展開について話し合っ て展開(出来事と解決方法)の パターンをまとめる。  ○自分が書く物語の大まかな展開 のパターンを決める。	◇桃太郎の、鬼を退治するため にお供を連れていく「恐ろし い敵が出る」→「仲間の力を借 りる」パターンを例示する。 ◇出来事と解決方法のパター ンを「敵が出る」、「迷う」、「道具 を使う」、「逃げる」などに抽象 化してカードにまとめるよう 促す。  ◇提示しているカードから自分 が書いてみたい展開のパター ンを選ぶようにする。	イー②(ワークシート) 書く内容の中心を明 確にし、内容のまと まりで段落をつくっ たり、段落相互の 関係に注意したり して、文章の構成 を考え書く内容 の中心を考えてい る。
まとめ 5分	○学習の振り返りをする。  ○次時の学習の見通しをもつ。	◇本時で身に付いた力につい て、ためあてとの関 連を意識して記述 するよう促す。	

6-2 第3学年3組本時(9時間中の第3時)

(1) 本時の目標

- 相手や目的を意識して、想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。

(2) 本時の展開

時間	○主な学習活動	◇指導上の留意点	評価規準(評価方法)
導入 5分	○冒険物語の展開の 패턴について振り返る。  ○本時のめあてを確認する。	◇前時で作成したカードを提示する。  ◇ワークシートを振り返り、自分が選んだ展開の 패턴を想起できるよう促す。	
展開 35分	絵地図からどんな出来事と解決方法があるか考えよう。		
	○絵地図から想像した出来事を共有し、話し合う。  ○絵地図から自分が書きたい展開に合う出来事とその解決方法を考える。	◇事前に家庭でタブレット型端末機(コラボノート)を使って、絵地図を見て考えたことを記録させておく。 ◇アイデアを共有し、自分が書きたい展開の 패턴を面白みのあるものにするためにどうすればよいか具体化思考を促す。  ◇自分が選んだ展開の 패턴に合わせて、どんな登場人物や道具などが用意されているとよいか考えられるように助言する。	イー①(ワークシート) 相手や目的を意識して、想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。
まとめ 5分	○学習の振り返りをする。  ○次時の学習の見通しをもつ。	◇本時で身に付いた力について、めあてとの関連を意識して記述するよう促す。	



6-3 第3学年2組本時(9時間中の第6時)

(1) 本時の目標

- 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。

(2) 本時の展開

時間	○主な学習活動	◇指導上の留意点	評価規準(評価方法)
導入 5分	○出来事と解決方法を共有する。  ○本時のめあてを確認する。	◇書いている物語について具体的な出来事と解決方法を共有する。 ◇読者を引き付ける表現の工夫が必要であることを確認する。	
ハラハラドキドキする出来事と出来事を解決する場面を書こう。			
展開 35分	○ハラハラドキドキする出来事にするために、どのような表現を使えばよいか考えて、共有する。  ○事前に書いてきた下書きを読み合い、出来事の分かりやすさや、表現の工夫について交流する。  ○交流したことをもとに、下書きを直す。	◇例えば、登場人物の心情について、「うれしい」や「こわい」といった直接的な表現だけではなく「きらきらわらう」や「がたがたふるえる」などの表現を使うとよいことを、これまでに学習した物語を例に確認する。  ◇下書きをタブレット型端末機(Teams)で共有し、何が起きているか想像しやすいかや、よい表現や見えそうな表現について付箋にメモして伝え合うようにする。  ◇下書きと付箋のメモを基に原稿用紙に、読みやすい字で書くよう確認するよう言葉がけをする。	イー③(ワークシート、付箋) 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。  アー①(ワークシート) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。
まとめ 5分	○学習の振り返りをする。  ○次時の学習の見通しをもつ。	◇本時で身に付いた力について、めあてとの関連を意識して記述するよう促す。	



## 第4学年国語科学習指導案

対 象 第4学年1組・2組・3組

- 1 単元名           み力を伝える文章を書こう ～校外学習をきかくしよう～  
「もしものときにそなえよう」(光村図書 国語四下)

### 2 単元の目標

知 識 及 び 技 能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。</li> </ul>
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。</li> <li>・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。</li> <li>・書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。</li> <li>・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。</li> </ul>
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。</li> </ul>

### 3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。</li> <li>②自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。</li> <li>③書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。</li> <li>④間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。</li> </ul>	①学習の見通しをもって、調べたことを基に自分の考えを書き、読み合っ、進んで文章に対する感想や意見を伝え合おうとしている。

### 4 研究主題との関連

本単元における「具体」と「抽象」

- ・「具体」・・・魅力を感じる理由や事例
- ・「抽象」・・・提案したい校外学習の行き先、その施設の魅力

行き先として提案したい施設とその魅力という抽象的な事象から、魅力を感じる理由や事例へ具体化する。一方、具体的な理由や事例から行き先(抽象)を検討する児童もいると考えられる。どちらで学習を進める場合も、相手や目的を意識して書き方や内容の検討ができるよう指導する。このように具体と抽象を往還することで、具体化・抽象化思考力の高まりを期待する。

活動にあたっては、推敲の段階で文章の「初め(抽象)」と「中(具体)」の整合性を確かめる活動を行う。このとき、「中(具体)」に書いた内容に合うキャッチフレーズをつくり(抽象化)、「初め」に組み込むことで文章を整える。キャッチフレーズをつくる活動を友達と共有することで、具体的な書き方への理解を深めたい。

活動の中では、思考ツールやタブレット型端末機を活用し、児童が思考を整理したり活動経過や文章を友達と共有したりできるようにする。

## 5 単元の指導計画と評価計画(全11時間)

時	目標	学習内容・学習活動	評価規準
1	単元の目標を確認し、学習計画を立てることができる。	○単元のめあてを確認し、学習計画を立てる。	ウー①
2	文章を書く目的や伝える相手を意識して情報を集め、書く内容を選ぶことができる。	○諸施設を調べ、自分が提案したい校外学習先を決める。 ○提案したい施設の魅力を調べて書き出す。	イー①
3 4-1 本時  4 4-2 本時	複数の情報を分類・整理して伝えたい内容を明らかにすることができる。	○書き出した情報を分類・整理する。 ○伝えたいことを明らかにし、ワークシートにまとめる。	イー①
5	下書きを読み直して間違いを正したり、友達の文章について助言したりすることができる。	○「初め」に書く内容を考え、仮の「初め」を書く。	イー① イー④
6 7	自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、考えがよりよく伝わるように「中」の書き表し方を工夫することができる。	○「中」に書く内容を考え、段落構成や接続語の使い方など書き表し方を工夫して書く。	アー① イー②
8 4-3 本時	自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、考えがよりよく伝わるように「初め」の書き表し方を見直すことができる。	○「中」に書いた内容と「初め」に書いた内容との整合性を、友達と確かめ合う。 ○「中」に合うキャッチフレーズを考え、「初め」に組み込む。	イー③
9	内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考慮することができる。	○「初め」「中」に合わせて「終わり」に書く内容を考えて書き、提案書の下書きを完成させる。	アー① イー②
家庭学習	間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。	○提案書の下書きを音読して見直し、文章を整えて清書する。	反転学習
10 11	文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。	○施設の写真や資料を提示しながら自分で書いた提案書を読んで発表し、友達と感想を伝え合う。	イー③ ウー①

6-1 第4学年1組・2組本時(11時間中の第3・4時)

(1) 本時の目標

- 複数の情報を分類・整理して伝えたい内容を明らかにすることができる。

(2) 本時の展開

時間	○主な学習活動	◇指導上の留意点	評価規準(評価方法)
導入 5分	○本時のめあてを確認する。	◇既習のリーフレット作成時の学習を想起させる。 ◇仲間に分けるとはどのようなことか、例を挙げて説明する。	
調べた「み力」をなかまに分けて整理しよう。			
展開 40分 第3時 4-1	○書き出した情報を、仲間分け(分類)する。  ○仲間分け(分類)した情報を、友達と紹介し合う。	◇分類できない児童は、机間指導時個別に対応する。  ◇分類の仕方が適切かどうか協議させ、自らのワークシートを見直せるようにする。	イー①(ワークシート) 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。
展開 40分 第4時 4-2	○調べたことをまとめ、意見文を書く際に必要な情報を整理する。  ○整理した情報を、友達と紹介し合う。	◇分類した「魅力」を2点にしぼるよう指導する。 ◇より説得力のある「魅力」にするために、どんな理由や具体例を選ばよいか考えさせる。 ◇「魅力」と挙げた理由や具体例を結び付けさせ、自他が関係性を視認できるようにする。  ◇「魅力」と理由や具体例に整合性があるか、グループで確かめ合うよう指導する。 ◇よりふさわしい「魅力」や理由・具体例がないか協議させ、自らのワークシートを見直すよう促す。	イー①(ワークシート) 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。
まとめ 5分	○学習の振り返りをする。  ○次時の学習の見通しをもつ。	◇本時で身に付いた力について、めあてとの関連を意識して記述するよう促す。  ◇今回のワークシートを活用して、仮の「初め」を書くことを伝える。	

6-2 第4学年3組本時(11時間中の第8時)

(1) 本時の目標

- 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、考えがよりよく伝わるように「初め」の書き表し方を見直すことができる。

(2) 本時の展開

時間	○主な学習活動	◇指導上の留意点	評価規準(評価方法)
導入 5分	○本時のめあてを確認する。	◇文章を書く目的を確認する。 ◇「中」に書いた内容と合うように「初め」を書き直すことを確認する。	
「中」と合う「初め」を書いて、心をつかもう。			
展開 35分	○「中」に書いた内容と「初め」に書いた内容との整合性を、友達と確かめ合う。  ○「中」に書いた内容と合うキャッチフレーズを考え、「初め」の文章に組み込む。	◇誤例を示して、「初め」と「中」のずれについて理解できるようにする。 ◇友達と互いの文章を読み合うことで、複数の視点で整合性を確かめられるようにする。 ◇整合性を高める手だてとして、キャッチフレーズを活用することを理解できるようにする。さらに、相手を意識した「読みたくなる文章」を書くための手だてであることも伝える。  ◇「中」に書いた文章の中心となる語や文を活かして、キャッチフレーズを書けるようにする。 ◇「中」に書いた具体的な理由や事例を抽象化し、改めて「初め」の文章を書き直す活動を通して、具体と抽象の往還を促す。 ◇友達と協力して活動することで、語彙を増やせるようにする。	イー③(発言) 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。
まとめ 5分	○学習の振り返りをする。  ○次時の学習の見通しをもつ。	◇本時で身に付いた力について、めあてとの関連を意識して記述するよう促す。	

## 第5学年国語科学習指導案

対 象 第5学年1組・2組・3組

- 1 単元名 読み手が納得する意見文を書こう  
「あなたは、どう考える」(光村図書 国語五)

### 2 単元の目標

知 識 及 び 技 能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。</li> </ul>
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた情報を分類したり関連付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる。</li> <li>・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。</li> <li>・筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考慮することができる。</li> <li>・文章全体の構成に着目して、文や文章を整えることができる。</li> </ul>
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉がもつよさを認識するとともに、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとすることができる。</li> </ul>

### 3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた情報を分類したり関連付けたりして、伝えたいことを明確にしている。</li> <li>②筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。</li> <li>③文章全体の構成に着目して、文や文章を整えている。</li> </ul>	①粘り強く、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって、報告する文章を書こうとしている。

### 4 研究主題との関連

本単元における「具体」と「抽象」

- ・「具体」・・・本文
- ・「抽象」・・・論理展開・筆者（自分）の主張

本単元では、「読むこと」の学習において「具体」と「抽象」を明確に意識したり結び付けたりしながら学習を進めるようにする。説得力のある文章にするためには、主張に一貫性をもたせることが肝要である。自分の論理展開を意識するために、「筆者（自分）の主張」、「論理展開」、「本文」について、抽象度の高いものから決定・言語化・記述を行う。また自分自身の主張にたどり着くような論理展開を言語化してまとめることで、学習では常に確認しながら具体化した文章を書くことができると考える。一方、具体的記述を行う中で、情報の不足などの理由から決められた道筋通りに論理展開が行えない場合も想定できる。「具体」で行き詰まるときには「抽象」としての論理構成に立ち振り返り見直すことで、一貫性のある文章に修正したりより説得力を増したりする姿を期待する。「具体」と「抽象」の往還のための思考ツールは、これまで自分たちが学習してきた方法やツールから自分で選ぶこととする。それぞれの良さや特性を生かしながら、具体化・抽象化思考力を高める姿を期待する。

### 5 単元の指導計画と評価計画(全6時間)

時	目標	学習内容・学習活動	評価規準
1	意見文について関心を持ち、学習計画と学習課題を立てることができる。	○学習課題・学習計画を立てる。 ・新聞の投書を読んで感想を出し合い、自分の主張を発信することに関心をもつ。 ・意見文の書き方についてイメージをもちながら、学習計画を立てる。	イー①
2	意見文の作例を基に、意見文の構成や論理展開について理解することができる。	○いくつかの意見文を読み、書いた人の主張を読み取る。 ○文章をいくつかの構成に分け、それぞれの部分について簡単な言葉で表す。 ○意見文の要旨を簡単に表し、共通する論理展開の工夫を見付ける。	アー① イー①
3	意見文を書くために自分の主張を決め、理由や根拠について整理することができる。	○自分の主張を伝えたい相手を決め、自分の意見を主張するために必要な論理展開について簡潔な言葉で整理する。	イー①
家庭学習		○自分の主張や論理展開に応じて必要な資料を探したり、生活経験を文章で表現したりする。	反転学習
4 5-1 本時	自分の主張を論理展開に沿って構成や内容を考え、整理することができる。	○自分の主張や論理展開と集めた情報などの関連について考え、構成や内容を決定する。	イー②
5	自分の主張と主張を支える根拠や理由との整合性を確かめることができる。	○主張のそれぞれの理由や根拠としたい内容について、関連性を確認する。 ○書きたい文章の簡単な要旨を説明し合い、整合性について確認する。	アー①
6 5-2 本時	考えた構成に沿って文章を書くことができる。	○構成に沿って本文を記述する。	アー①
7 5-3 本時	文章を読み返し、自分の主張が一貫しているかを確認・修正することができる。	○本文と構成メモとを対応させながら自分の文章を読み、論理展開の一貫性を確認する。 ○必要に応じて加筆・修正を行う。	イー③ ウー①
家庭学習	自分の書いた意見文の良さに気付くことができる。	○自分が書いた意見文を読ませたい人に読んでもらい、感想を聞く。	



(1) 本時の目標

- 自分の主張について論理展開に沿って構成や内容を考え、整理することができるようにする。

(2) 本時の展開

時間	○主な学習活動	◇指導上の留意点	評価規準(評価方法)
導入 5分	○前時までの振り返りをする。  ○本時のめあてを確認する。	◇学習活動のゴール(意見文)を確認し、相手意識をもつことができるようにする。 ◇情報を集めただけでは意見文にならないことを確認する。	
説得力を意識した構成メモを作ろう。			
展開 35分	○自分の主張や論理展開と集めた情報などを関連させた構成メモを作成する。  ○グループで構成メモを紹介し合う。	◇前時に簡単にまとめた論理展開を確認しながら、具体的な情報を箇条書きで書き込むよう指示する。 ◇図化した構成メモにすることで、どの部分を詳しくするための情報であるのかを視覚的に分かりやすくできるようにする。 ◇論理展開に説得力があるのかを自分で確かめながら、必要な情報を取捨選択したり、主張のための論理展開を修正したりするよう促す。  ◇構成メモについて、論理展開と情報とが関連したものになっているのかを確かめながら共有できるようにする。 ◇紹介の時間の後に自分の構成メモを見直したり修正したりする時間を設け、共有を自分の学びに生かせるようにする。	イー②(発言・ノート)筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。
まとめ 5分	○学習の振り返りをする。  ○次時の学習の見通しをもつ。	◇本時で身に付いた力について、めあてとの関連を意識して記述するよう促す。	

6-2 第5学年2組本時(7時間中の第6時)

(1) 本時の目標

- 考えた構成に沿って文章を書くことができるようにする。

(2) 本時の展開

時間	○主な学習活動	◇指導上の留意点	評価規準(評価方法)
導入 5分	○前時までの振り返りをする。  ○本時のめあてを確認する。	◇学習活動のゴール(意見文)を確認し、相手意識をもつことができるようにする。 ◇主張を聞いてもらうための「意見文」であることを確認する。	
構成メモをもとに意見文を書こう。			
展開 35分	○構成メモを基に、意見文を書く。  ○書いた文章を共有する。	◇説得力をもたせるための文末表現や接続語などについて全体で共有し、文章を書く足掛かりとする。 ◇具体的な情報だけにとらわれず、構成メモを参考にして論理展開を意識しながら書くことを促す。 ◇自分で考えて効率の良い媒体(ノート、タブレット)で書くことを伝える。  ◇友達の良い表現や工夫を自分の文章に生かすよう促す。	ア-①(発言・ノート) 情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。
まとめ 5分	○学習の振り返りをする。  ○次時の学習の見通しをもつ。	◇本時で身に付いた力について、めあてとの関連を意識して記述するよう促す。	

6-3 第5学年3組本時(7時間中の第7時)

(1) 本時の目標

- 文章を読み返し、自分の主張が一貫しているかを確認・修正することができるようにする。

(2) 本時の展開

時間	○主な学習活動	◇指導上の留意点	評価規準(評価方法)
導入 5分	○前時までの振り返りをする。  ○本時のめあてを確認する。	◇学習活動のゴール(意見文)を確認し、相手意識をもつことができるようにする。 ◇説得力のある意見文の特徴について再度確認する。	
推敲してよりよい文章にしよう。			
展開 35分	○友達の文章を読み、簡単に要約する。  ○友達がした自分の文章の要約と自分の構成メモを見ながら推敲する。	◇友達の言いたいことを文章から捉え、簡単な言葉で主張と論理展開をまとめるようにする。  ◇誤字脱字に終始せず、自分のしたい主張や論理展開と合致しているかを確認しながら文章全体の流れを整えるよう促す。 ◇必要に応じて見合う友達を替えながら、自分の主張がより的確に伝わるように文章を整え続けることを促す。 ◇自分で考えて効率の良い媒体(ノート、タブレット)で書くことを伝える。	イー③(発言・ノート) 文章全体の構成に着目して、文や文章を整えている。 ウー①(発言・ノート) 粘り強く、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって、報告する文章を書こうとしている。
まとめ 5分	○学習の振り返りをする。	◇本時で身に付いた力について、めあてとの関連を意識して記述するよう促す。	



## 第6学年国語科学習指導案

対 象 第6学年1組・3組・4組

- 1 単元名 筆者の考えを読み取り、社会と生き方について話し合おう  
「メディアと人間社会」 「大切な人と深くつながるために」(光村図書 国語六)

### 2 単元の目標

知識及び技能	・文と文との接続の関係、文章の構成や展開について理解することができる。
思考力、判断力、表現力等	・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 ・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。 ・事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成をとらえて要旨を把握することができる。
学びに向かう力、人間性等	・進んで文章を読み比べ、自分の意見を広げたり深めたりしようとしている。

### 3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①文と文との接続の関係、文章の構成や展開について理解している。	①「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた情報を分類したり関連付けたりして、伝えたいことを明確にしている。 ②「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。 ③「書くこと」において、目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。	①粘り強く、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって、意見する文章を書こうとしている。

### 6 研究主題との関連

本単元における「具体」と「抽象」  
・「具体」・・・主張(結論)の根拠・説明  
・「抽象」・・・筆者(自分)の主張=結論

本単元では、「読むこと」の学習において「具体」と「抽象」を明確に意識したり結び付けたりしながら学習を進めるようにする。他者に伝わる効果的な文章にするためには、主張に一貫性をもたせることが大切である。文章を構成する文章の構造と機能を児童が捉えることで、主張と根拠をより強く意識した活動が促され、主張に一貫性がより見られることが予想される。また、主張の一貫性を意識して自分の論理展開を組み立てる時に文章全体における具体化思考と抽象化思考の往還が行われ、段落や文の中でも具体化思考と抽象化思考の往還が成されると考える。

「具体」「抽象」の往還のための思考ツールは、2段階設定することによりそれぞれの良さや特性を生かしながら、抽象化・具体化思考力を高める姿を期待する。

さらに、自分の主張を伝える相手を自分で選択することで具体的思考力が児童一人ひとりの意欲に合ったものとなり、より主張を支える根拠(具体)が効果的なものとなると考えられる。

5 単元の指導計画と評価計画(全10時間)

時	目標	学習内容・学習活動	評価規準
1	教材文から意見文について関心をもち、学習計画と学習課題を立てられるようにする。	○学習課題・学習計画を立てる。 ・「プログラミングで未来を創る」を読んで感想を出し合い、自分の主張を発信することに関心をもち、 ・意見文の書き方についてイメージをもちながら、学習計画を立てる。	イー①
2	「メディアと人間社会」を読み、論の展開の仕方や表現の仕方を捉え、筆者の考えを読み取ることができるようにする。	○意見文を読み、筆者の主張を読み取る。 ○文章をいくつかの構成に分け、それぞれの部分について簡単な言葉で表す。	アー① イー②
3	「大切な人と深くつながるために」を読み、論の展開の仕方や表現の仕方を捉え、筆者の考えを読み取ることができるようにする。	○意見文を読み、筆者の主張を読み取る。 ○文章をいくつかの構成に分け、それぞれの部分について簡単な言葉で表す。	アー① イー②
4	意見文の構成や論理展開について理解できるようにする。	○二つの文章を比べ、それぞれの特徴や共通点を整理する。	アー① イー②
5 6-3 本時	自分の主張と伝える相手を設定し、それを支える根拠や理由を考えることができるようにする。	○自分の主張を伝えたい相手を決め、自分の意見を主張するために必要な根拠や理由についてマンダラチャートを活用して整理する。	イー① ウー①
6	自分の主張の根拠や理由となる事例や経験や数値を集められるようにする。	○自分の主張や論理展開に応じて必要な資料を探したり、生活経験を文章で表現したりする。	アー① イー①
7 6-1 本時	自分の主張と主張を支える根拠や理由との整合性を確かめられるようにする。	○主張のそれぞれの理由や根拠としたい内容について、関連性を確認する。 ○書きたい文章の簡単な要旨を説明し合い、整合性について確認する。 ○自分の主張や論理展開と集めた情報などの関連について考え、構成メモを活用して構成や内容を決定する。	イー②
8 6-4 本時	考えた構成に沿って文章を書くことができるようにする。	○構成や表現の方法を確認する。 ○構成に沿って自分の主張と事例を区別して本文を記述する。	アー①
9	文章を読み返し、自分の主張が一貫しているかを確認・修正することができるようにする。	○本文と構成メモとを対応させながら自分の文章を読み、論理展開の一貫性を確認する。 ○相手に応じた表現や言語に気を付けて推敲する。 ○必要に応じて加筆・修正を行う。	イー③
10	意見文を友達と読み合い、よりよい意見文になるようにする。	○友達と意見文を読み合う。 ○よりよい意見文になるように助言し合う。	ウー①

6-1 第6学年3組本時(10時間中の第5時)

(1) 本時の目標

○ 自分の主張と伝える相手を設定し、それを支える根拠や理由を考えることができるようにする。

(2) 本時の展開

時間	○主な学習活動	◇指導上の留意点	評価規準(評価方法)
導入 5分	○前時までの振り返りをする。  ○本時のめあてを確認する。	◇学習活動のゴール(意見文)を確認し、相手意識をもつことができるようにする。 ◇情報を集めただけでは意見文にならないことを確認する。	
五小をよりよくするために「伝えたいこと」を考えよう。			
展開 35分	○自分の主張と根拠や理由を関連させた構成メモ(1)を作成する。  ○グループで構成メモを紹介し合う。	◇主張(学校生活において大切なこと)と伝える相手(在校生)を明確にして、具体的な情報をマンダラチャートに書き込むよう促す。 ◇図化した構成メモにすることで、どの部分を詳しくするための情報であるのかを視覚的に分かりやすくできるようにする。 ◇論理展開に説得力があるのかを自分で確かめながら、必要な情報を取捨選択したり、主張のための論理展開を修正したりするよう促す。  ◇構成メモについて、論理展開と情報とが関連しているのかを確かめながら共有するよう促す。 ◇紹介の時間の後に自分の構成メモを見直したり修正したりする時間を設け、共有を自分の学びに生かせるようにする。	イー①(発言・ノート) 「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた情報を分類したり関連付けたりして、伝えたいことを明確にしたりしている。  ウー①(発言・ノート) 粘り強く、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって、意見する文章を書こうとしている。
まとめ 5分	○学習の振り返りをする。  ○次時の学習の見通しをもつ。	◇本時で身に付いた力について、めあてとの関連を意識して記述するよう促す。	

6-2 第6学年1組本時(10時間中の第7時)

(1) 本時の目標

- 自分の主張を論理展開に沿って構成や内容を考え、整理することができるようにする。

(2) 本時の展開

時間	○主な学習活動	◇指導上の留意点	評価規準(評価方法)
導入 5分	○前時までの振り返りをする。  ○本時のめあてを確認する。	◇学習活動のゴール(意見文)を確認し、相手意識をもつことができるようにする。 ◇情報を集めただけでは意見文にならないことを確認する。	
自分の主張が明確になるような構成メモを作ろう。			
展開 35分	○自分の主張や論理展開と集めた情報などの関連させた構成メモ(1)を基に構成シート(2)を作成する。  ○グループで構成シートを紹介し合う。	◇前時にまとめたマンダラチャートを確認しながら、構成シートに書き込む。 ◇図化した構成メモにすることで、どの部分を詳しくするための情報であるのかを視覚的に分かりやすくできるようにする。 ◇論理展開に説得力があるのかを自分で確かめながら、必要な情報を取捨選択したり、主張のための論理展開を修正したりできるよう個別に助言する。  ◇二つの構成メモについて、論理展開と情報とが関連したものになっているのかを確かめながら共有できるようにする。 ◇紹介の時間の後に自分の構成メモを見直したり修正したりする時間を設け、共有を自分の学びに生かせるようにする。	イー②(発言・ノート)「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。
まとめ 5分	○学習の振り返りをする。  ○次時の学習の見通しをもつ。	◇本時で身に付いた力について、めあてとの関連を意識して記述するよう促す。	



6-3 第6学年4組本時(10時間中の第8時)

(1) 本時の目標

- 考えた構成に沿って文章を書くことができるようにする。

(2) 本時の展開

時間	○主な学習活動	◇指導上の留意点	評価規準(評価方法)
導入 5分	○前時までの振り返りをする。  ○本時のめあてを確認する。	◇学習活動のゴール(意見文)を確認し、相手意識をもつことができるようにする。 ◇主張を聞いてもらうための「意見文」であることを確認する。	
構成メモをもとに意見文を書こう。			
展開 35分	○構成メモを基に、意見文を書く。  ○書いた文章を共有する。	◇説得力をもたせるための文末表現や接続語などについて全体で共有し、文章を書く足掛かりとする。 ◇具体的な情報だけにとらわれず、構成メモを参考にして論理展開を意識しながら書くことを促す。 ◇自分で考えて効率の良い媒体で書くことを伝える。  ◇友達のよい表現や工夫を自分の文章に活かすよう促す。	ア-①(発言・ノート) 文と文との接続の関係、文章の構成や展開について理解している。
まとめ 5分	○学習の振り返りをする。  ○次時の学習の見通しをもつ。	◇本時で身に付いた力について、めあてとの関連を意識して記述するよう促す。	